

受賞記念講演：「分断された世界における多国間主義の役割」

経済・社会科学賞 / マリ・エルカ・パンゲストウ 世界銀行専務理事

私たちは、社会経済の発展により幸福を享受した反面、多くの地球規模での課題に直面しています。

世界は、コロナ禍により、グローバルなバリューチェーンが分断され、エネルギーや食料問題など、様々な危機に直面した不安定な時代を迎えています。こうした中において、グローバルな経済協力、すなわち多国間主義の再構築が課題となっています。

最近の世界経済の成長は芳しくありません。2023年、経済の成長率は1.7%と、パンデミック以前よりも成長が鈍化すると予測されています。1人当たりの所得についても、2019年のレベルに戻ることは難しいと言われています。発展途上国では、負債が重なり、成長が逆行する可能性もあります。貧困対策は停滞しており、実際、2020年には、世界で7000万人以上が極端な貧困に陥り、その多くがアジアの人々でした。パンデミックの影響で、人々の収入は減少しましたが、世界の低位40%の減少幅は、富裕層のそれに比べ大きく、格差が拡大していることがわかります。

また、子どもたちは平均して140日間程度、国によっては2年間も学校に行けませんでした。その結果、学習が遅れ、将来の成長率・生産性への影響が懸念されます。

さらに、気候変動や経済危機においても、貧しい国々是对策を講じることができず、このままでは2030年までに、新たに1億3000万人が極端な貧困に陥ると言われています。

この流れを反転するには、グローバルな協力が不可欠で、多国間主義を強化し、各国間の政策を調整する必要があります。

貿易を例に挙げると、COVID-19やエネルギーの不安、ウクライナの問題、地政学的な問題、産業政策により、各国が貿易制限を行った結果、サプライチェーンが制限され、事態は悪化しました。こうして、パンデミックの際、アフリカでワクチン分配の不平等がもたらされ、ウクライナの問題で食糧危機が起きました。貿易制限の緩和により、2030年までに2200万人を貧困から救うことができ、所得を改善することができますでしょう。

我々はこれらの課題を解決し、経済を回復・発展させるために、どのように多国間主義を確立させることができるでしょうか。環境にも配慮された、強靱で包摂的な発展を促進するためには、エビデンスに基づいたバランスの取れた包括

的な政策が求められます。

気候変動の問題においても、貿易政策の役割が非常に重要です。例えば、アフリカの国々がグリーンな技術にアクセスできるようにする、グリーンな製品の関税を低くするなど、グリーン貿易を奨励する政策は、環境的に持続可能な生産を促進することができます。

強靱化の鍵は、ロケーションの多様化にあります。東日本大震災後、福島自動車部品工場は生産施設を別の場所に移転させました。COVID-19やタイの洪水の後も、このようなリスク分散の動きが見られています。これにより、発展途上国も利益を享受することができます。

そして、貿易による利益を全ての国や地域に届けることで、不平等を是正し、包摂的な成長につなげることが重要です。貿易で豊かになった国や地域の恩恵が広がることで、教育や健康、ジェンダーの平等、人々が経済に参画する力を与えるなど、人的資本の開発に焦点を当てることも可能になります。

私はエコノミストとして30年間仕事をする中で、グローバルなバリューチェーンに参加し、経済を多角化させることの重要性を主張してきました。経済の相互依存はリスクをはらみますが、相互依存によって対立を避けることができ、平和と繁栄を達成することができるのです。一方、国家安全保障と経済的自立のバランスも重要で、どちらかに偏ってはいけません。そのため、国の安全について、どのような懸念があるかを明確にすべきです。

過去には秩序に基づくグローバルなルールがありました。が、リーダーとなる国や組織が不在の今、地域という枠組みが役割を果たします。例えば、東南アジアと東アジアは、国境を越えたバリューチェーンの構築と強化において、より大きな役割を果たす必要があります。変革し続ける今日の世界においては、地域がバランスの取れた経済的相互依存の基盤を提供し、人々、地球、経済の間の関係に焦点を当て、グローバル化を再構築することを目指すべきです。そのための最良の手段が、多国間主義に基づく協力です。そして、東南アジアと東アジア地域は、開かれた地域主義を通じて多国間主義を維持し、ますます二極化する世界から脱却するという重要な役割を担っています。

